

みんなで 進めよう
とちぎの
元気な森づくり



とちぎの森林…… 1 ページ

とちぎの^{じんこうりん}人工林… 3 ページ

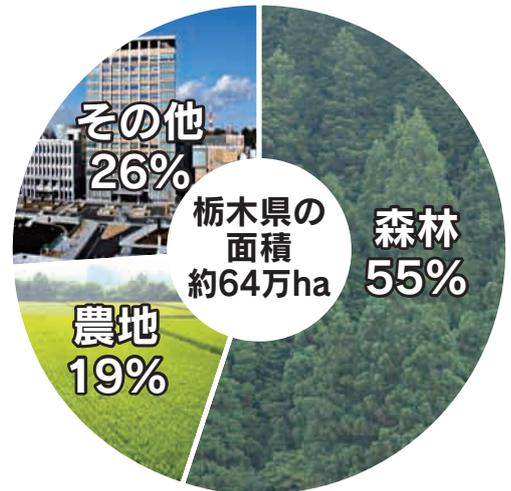
とちぎの^{さとやまりん}里山林… 6 ページ

とちぎの森林

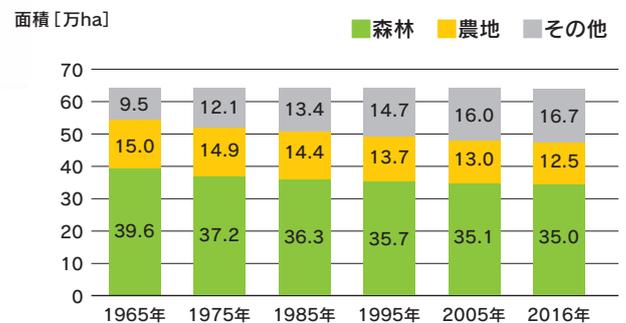
栃木県は、北西部に日光白根山や男体山などの高い山々がそびえ、東部になだらかな八溝山地、中央から南部にかけて平野が広がり、県土全体が水と緑の美しい自然に恵まれています。森林面積は約35万haで、県土面積（約64万ha）の約55%をしめています。



市町別の森林面積のわりあい（2016年）



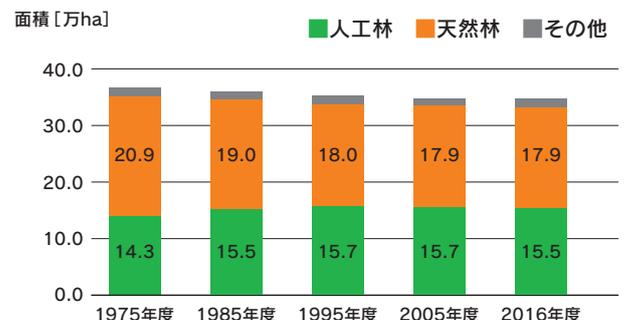
栃木県の土地利用（2016年）



栃木県の土地利用の変化

天然林と人工林

県内の森林のうち、天然林は約17.9万ha（県全体の森林面積の約51%）、人工林は約15.5万ha（県全体の森林面積の約45%）です。



栃木県の天然林と人工林の面積の変化

※ 1 ページの数値データの出典： 栃木県森林・林業統計書（栃木県）等

こうようじゅ しんようじゅ
広葉樹と針葉樹

けんない てんねんりん こうようじゅ おお てんねんりん めんせき やく パーセント やく ハクテール
 県内の天然林には広葉樹が多く、天然林の面積の約82% (約14.6万ha) はコナラやクヌギな
 こうようじゅ いっぽう じんこうりん めんせき やく パーセント やく ハクテール しんようじゅ
 どの広葉樹です。一方、人工林の面積の約96% (約14.8万ha) は針葉樹で、スギやヒノキなど
 おお う
 が多く植えられています。



栃木県の森林における広葉樹と針葉樹のわりあい (2016年)
 ※林野庁調べ (森林資源の現況)

こうようじゅ
広葉樹

		コナラやクヌギは、ドングリがなる木で、シイタケ(げんぼく)原木(まき)や薪(まき)などに使(つか)われます。
コナラ	クヌギ	

しんようじゅ
針葉樹

		スギやヒノキは、建築(けんちく)用(よう)家具(かぐ)や工芸品(こうげいひん)などに使(つか)われます。
スギ	ヒノキ	

森林のはたらき

森林にはたくさんの働きがあり、私たちのくらしや環境をまもる上で大切な役割を果たしています。



とちぎの人工林

「植えて、育てて、伐って、使って」元気な森に!

人が苗木を植えて育てている森林を「人工林」といいます。

主に、木材を生産することを目的とした森林です。

人工林を元気にするには、「苗木を植え、こまめに手入れし、木が成長したら伐って利用し、その後苗木を植え、再び大きな木に育てる」という作業をくり返していくことが必要です。

こうした作業を行い、木材をつくり出す仕事を「林業」といいます。林業のサイクルが進まず、放置された森林は、洪水や土砂くずれを防ぐ力が弱くなってしまいます。

林業のサイクル



しよくりん 植林

「地ごしらえ」という整地作業をし、苗木を手作業で1本ずつ植えていきます。



しゅばつ 主伐

柱や板の材料となれるだけの太さ（植えてから45年以上）まで育った木を伐って、次の苗木を植える準備をします。



かんばつ 間伐

植えてから20～30年ころに間引き作業を行い、森林の中に日があたるようにし、樹木が元気に育つようにします。



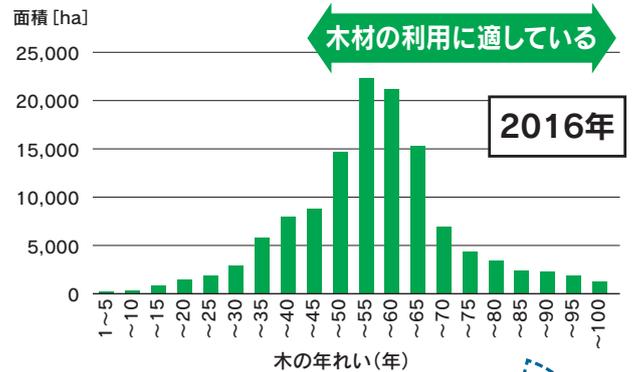
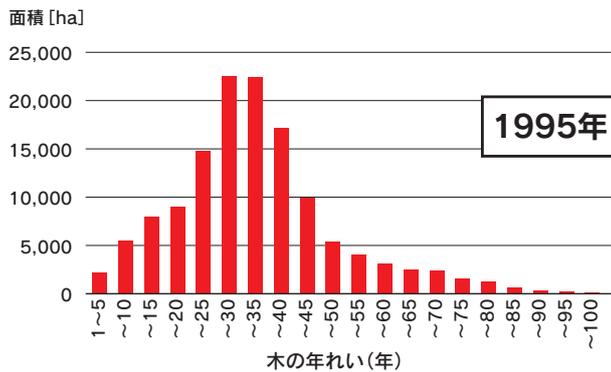
したがり 下刈り

苗木の成長をさまたげる植物を取り除きます。苗木が他の草木よりも背が高く成長するまで（植えてから5～10年間）、毎年、夏に行います。



人工林には資源がいっぱい

栃木県内の人工林の多くは戦後（1945年以降）に植林した森林です。現在は成長し、木材の利用に適した45年以上の森林の面積は、全体の約7割となっています。

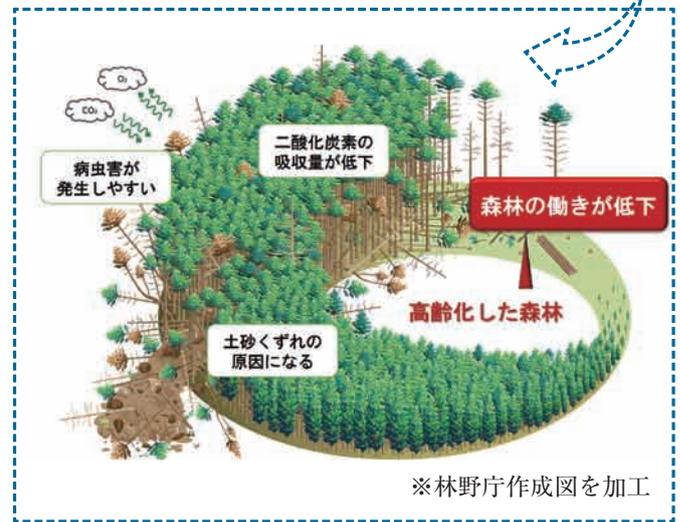


木の年れいごとの森林面積の変化（人工林）

※出典：栃木県森林・林業統計書（栃木県）

木材の利用が進まず、若い森林の面積が増えないと、森林は高齢化してしまい、森林の働きが低下して、私たちの暮らしや環境にも大きな影響を及ぼします。

このため、木材に利用できる木は伐って無駄なく使い、伐った後には苗木を植えて、また新しい木を育てていく「植える→育てる→伐る→使う→植える」という森づくりのサイクルを続けていくことが、元気な森を将来に引き継いでいくために必要です。



※林野庁作成図を加工

林業で働く人

森づくりのサイクルを続けるには、林業で働く人たちの存在が欠かせません。

林業で働く人は少なくなってきましたが、

近年、若い人の割合は増えています。女性が活躍している地域もあり、2016年度末の県内林業 就業者632人のうち女性は14人います。

（県林業木材産業課調べ）



とちぎの木材

栃木県は、スギ、ヒノキを中心として森林資源が豊富であり、全国でも有数の木材生産地です。

木材の生育にとって恵まれた気候条件であることから、栃木県の森林から生産される「とちぎ材」は、円のゆがみ、曲がりなどが少なく、優れた品質であることで知られています。



■とちぎの木を使って 森を元気に

「森づくりのサイクル」は、林業で「植えて、育てて、伐って」を行い、その伐った木を私たちが「使う」ことで成り立ちます。

私たちが、日々の暮らしの中で、栃木県産の木をたくさん使えば、とちぎの森林にこのサイクルが根付いて、人も森も元気になります。

おうちで



学校で



もくざい かんきょう 環境にも 人にもやさしい 木材は

○炭素のかんづめ

森林の木々は、空気中から二酸化炭素を取りこんで、炭素を自分の体にたくわえて、酸素を空気中にはき出します。伐って木材として加工しても、炭素はたくわえられたままなので、地球温暖化の防止につながります。



○循環できる資源

石油は使い続けられなくなりますが、木材は「森づくりのサイクル」により再生できる資源であり、形を変えて使い続けることができます。

○こちよい

木は、コンクリートや金属に比べて熱が伝わりにくい性質があるので、ぬくもりを感じます。また、木材は衝撃をよく吸収するので、やわらかさも感じることができます。

○いやされる

木の香りは、森の中にいるときと同じように、人をリラックスさせる効果があります。

10月は

木づかい推進月間

県民みんなで栃木県産の木材利用を進めていくために、2017年10月に「とちぎ木づかい条例」ができました。

さとやまりん とちぎの里山林

栃木県には、田畑、森林、小川やため池などで形作られ、多くの生き物を育む身近な自然「里山」がたくさんあります。里山にある森林は「里山林」とよばれ、主にコナラやクヌギなどの広葉樹が生育し、燃料にする薪や肥料にする落ち葉をとったり、炭焼きやキノコ栽培の場所として利用されてきました。

これらの木は15～20年のサイクルで伐採し、その切り株から「萌芽」といって再び新しい芽が出て元のような森林に戻ります。

里山林は人が手入れし利用することで、元気な森林として保たれます。



里山林の手入れと利用

とちぎの里山林を元気にする

人のくらしは大きく変化し、里山林が利用されなくなり、放置され、荒れた里山林が増えました。

荒れた里山林は、ゴミがすてられたり、農作物をあらすイノシシなどが人里に現れる原因にもなりました。

このため、2008年度から「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用し里山林の手入れを進めています。

今では、自然のことを学んだり、楽しい遊びを体験できる場所として、利用されるようになりました。

美しい里山林を将来に引き継いでいくためには、地域でくらす人たちだけではなく、都市に住む人たちも協力して里山林をまもっていく必要があります。

放置され荒れた里山林



手入れが行き届いた里山林

■ 私たちの手で森をまもる

森づくりに関わる人が増えることも、森林をまもることにつながっていきます。
学校や地域などでは、次のような活動をしています。

○ 「緑の少年団」の活動

森づくり体験や生き物調べなどの環境学習活動、木工・竹細工などの体験を通して、
緑を愛し、まもり、育てる心豊かな子供を育てる団体です。
栃木県では、181団、約3万5千人（2018年5月）の団員が活動しています。

※栃木県緑の少年団連盟事務局（公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構） <https://t-kms.sakura.ne.jp/syounendan.html>

○ 森づくり活動体験

下草刈り、伐採などの森づくり活動を体験します。
栃木県では、森林をまもり育てていくため、森づくり活動に参加いただけるボランティア会員の活動を支援しています。

※とちぎの元気な森づくりサポートサイト <https://t-kms.sakura.ne.jp/moridukuri/katsudou.html>



○ 学校林等での森林環境学習

学校林等を活用した環境学習やネイチャーゲームや葉っぱ遊び、バードウォッチングなど森林内でのさまざまな活動を通して、人の生活や環境と森林との関わりや、森林をまもることの大切さを学びます。

※とちぎの森林環境学習情報サイト https://t-kms.sakura.ne.jp/kankyoku_kyouiku/index.html



てんねんりん 天然林をまもる

まわりの木から落ちた種や、風などに運ばれてきた種が芽を出し、自然に育った森林を「天然林」といいます。

天然林をまもるには、人の手をあまり加えず、できるだけ自然の状態を保つようにする必要があります。

※国立公園、県立自然公園…すぐれた自然環境（自然の森林や草原等）を保護



日光国立公園内のミズナラ林（日光市）



作成：栃木県、公益社団法人とちぎ環境・みどり推進機構

監修：国立大学法人宇都宮大学農学部森林科学科 大久保達弘教授

（2019年3月発行）

※このパンフレットは「とちぎの元気な森づくり県民税」を活用して作成しました。

